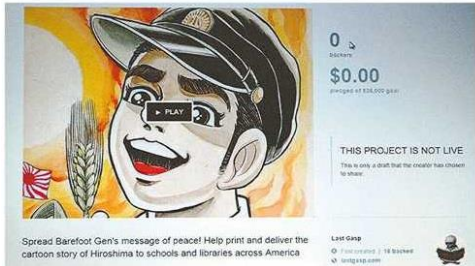


核なき世界 若い力で



米国の子どもに「ゲン」新装版を

漫画「はだしのゲン」の英語版を新装して米国の学校や図書館に寄贈するため、米国の出版社が四日前（日本時間五日未明）から、インターネット上で寄付を募る試みを始めた。写真、作品の舞台、広島市に原爆が落とされてから、六日で七十年。出版社は、核兵器が引き起こした悲劇を若い世代に伝えたいと賛同を呼び掛けている。

募集しているのは、米サンフランシスコに本社を置く「Last Gasp」社。漫画「はだしのゲン」の英語版を新装して米国の学校や図書館に寄贈するため、米国の出版社が四日前（日本時間五日未明）から、インターネット上で寄付を募る試みを始めた。写真、作品の舞台、広島市に原爆が落とされてから、六日で七十年。出版社は、核兵器が引き起こした悲劇を若い世代に伝えたいと賛同を呼び掛けている。

米の出版社、寄付募る

同社は一九九〇年代に「はだしのゲン」英語版の版權を取得し、訳文の改善などをしながら近年まで版を重ねてきた。戦後七十年にあたる今年、戦争の悲惨さをあらためて世に訴えたいと、これまでのペーパーバックからハードカバーに新装することを計画。ネット上で寄付を募る専門サイトを利用し、九月十日ま

核兵器のない世界の実現を国際社会に呼び掛けようと、広島と沖縄の高校生が街頭で署名活動をしている。7年前から始めた活動は全国の高校に広がり、これまでに集めた署名は35万人分を超えた。19日には、金城学院高（名古屋市東区）の生徒とともに名古屋市で署名を求める。（浅井俊典）

名古屋でも19日活動



中心になっているのは、広島女学院高（広島市中区）、盈進高（広島県福山市）、沖繩尚学高（那覇市）の生徒たち。毎月一回、広島市の原爆ドームなどで署名を集めたり、他校に協力を求めたりして

原爆ドーム前で核兵器廃絶の署名を求める高校生たち＝広島市中区で



二年の並川桃夏さん（セ）は、被爆二世でもある。課外活動で話を聞く予定だった被爆者の男性が亡くなっ

たことがあり、「自分たちが被爆者の言葉を聞くことができる最後の世代だと痛感した」という。並川さんは「私たちにとって、戦争とか原爆って結構重いし、核兵器廃絶なんて気の遠くなる話だと感じることもある。だけど、核兵器をなくしたいと純粹に思える高校生にしかできないことがあると思う」と話す。名古屋市内では十九日午後二時半ごろから約一時間、名古屋駅前と栄の名古屋二越栄駅前、名古屋パルコ前の三カ所で署名活動をする予定。

高校生集めた署名35万人

（上野実輝彦）